

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100295		
法人名	医療法人 芳明会		
事業所名	グループホーム こんね		
所在地	宮崎市大坪西1丁目1番56号		
自己評価作成日	平成27年7月23日	評価結果市町村受理日	平成27年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-gokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&jiyosyoCd=4590100295-00&PrefCd=45&VeripnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅密集地に位置しており、協力病院や同法人施設の小規模多機能施設との連携を図りながら、地域の清掃活動に参加し、環境づくりに取り組んでいる。運営推進会議への参加の家族も増えており、認知症に対する理解度も高くなり、家族交流の場ともなっている。利用者とコミュニケーションを図りながら、寄り添う介護・奪い取らない介護で、その人らしい生活、ゆとりある生活を過ごして頂けるよう配慮している。また、処遇改善加算の適用を受け、職員の業務への意欲と改善に努めている。利用者や家族の要望や不満・不安をさりげなく傾聴できる雰囲気づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住み慣れた地域で、利用者と職員が寄り添って生活し、居心地よい空間を作っているホームである。人生の質を重視し、外に向けた支援として、利用者の外出する機会を取り入れた医療リハビリを導入したことで、「利用者同士の会話が弾み、笑顔が増える」「夜間の熟睡」などの効果を上げている。地域の人が気楽に遊びに来れる「こんね」として開かれた運営を行い、ホームに足を運びたくなる行事等を積極的に設け、地域とつながるように取り組んでいる。利用者と職員は支え合い、利用者の症状の特徴を踏まえた良質な環境づくりに努め、また、運営者、管理者は職員の業務への意欲と改善に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に自然に溶け込み、利用者が当たり前で過ごして頂けるようケアを行っている。利用者の情報を提供し、ケアの共有で利用者本位のケアに努めている。	全職員で共有できる箇条書きの理念を作っている。理念をもとに職員間で意識の統一を図りながら、地域とつながったゆとりあるケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板等で地域の情報を得るようにし、職員も地域の一員であることの自覚を持つよう努めている。	地域の人々が気楽に遊びに来れる「こんね」として開かれた運営を行っている。利用者や職員はなじみの関係を築き、近隣の人が手作りのおやつ持参で来訪したり、楽器の演奏等を披露するなど、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂き、認知症について理解と地域住民への声かけ支援に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能施設と合同で2ヶ月に1回開催し、出席者それぞれの立場から意見を頂いている。会議で出された意見等を参考にし、日頃のケアの改善に努めている。	会議には、法人代表者も参加し、認知症の知識や介護保険の説明、家族介護の悩みや問題などを話し合っている。出された意見を職員会議等で検討し、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの情報提供や制度等の不明点等は、電話や直接担当者との面談で解決に努めている。地域包括支援センターの運営推進会議への出席で、制度アドバイスや情報収集に取り組んでいる。	担当課に出向き、情報交換や相談などをし、連携を図っている。また、制度上の不明点やホームからの要望等にも適切な助言をもらうなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、常に身体拘束を理解のもとに家族に必要性を説明・理解をいただき、利用者の抑圧感のない生活支援に取り組んでいる。	全職員が身体拘束となる行為を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒防止のために、夜間のみ家族等の納得の上、柵を設置することがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、身体拘束と同様に職員間の声かけで、常に虐待のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の利用者が日常生活支援事業・成年後見人制度を利用している。成年後見人制度の説明を受け、今後1名の利用者の活用支援を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書をもとに説明を行い、理解を頂いている。内容の変更については、その都度連絡し、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が職員に対し、不満や苦情が自由に言えるような関係づくりに努めている。年1回家族会を開催し、意見交換で得た情報を運営に活かせるように努めている。	全職員で、家族にグループホームとは何かを理解してもらうことが重要と考え、家族に対して的確な返答を行うように努めている。出された意見や情報を運営に生かし、ケアの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見・要望を聞いたり、日常的なかかわりの中で意見・要望等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。必要性がある時は、代表者に上申し、施設の改善に努めている。	管理者は、必要があれば運営者と話し合い、職員の業務への意欲と改善に努めている。職員同士も、補い助け合う関係で、気付きや意見が言える体制を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員間では、常に話題に上げ協議しているものの、全てを代表者に上申する事は難しいのが現状である。月1回開催の法人各施設の代表が集まり、開催されるが問われているような内容については殆ど協議されない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講の機会は確保されており、職員の能力に応じた研修を積極的に受講できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合った事業所の職員から話を伺ったり、県GH協議会に加入し、積極的に研修参加し、情報を得るよう努めている。医療機関と交流会でケアの悩み解消に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	穏やかな表情と心やさしい言葉で接し、本人が安心できる雰囲気づくりとしっかりと傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一方的な事業所の話ではなく、家族の思いや要望を傾聴しながら、家族自身を受け止められるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな些細な事でも話を聴くことで、本人・家族が今何に困っているか、何を必要としているかを見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にとっては自分の家、職員は家族の一員という気持ちで共に過ごし、安心や安定感を保てるよう努めている。また、その人らしさ・思いを活かした関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を面会時や電話で報告することで、本人の様子を喜んだり、心配したりすることでお互いに支えている事を確認しあうよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間に関係なく、面会・外出・外泊できるようにしており、面会に来やすい雰囲気づくりに努めている。家族に電話を入れて頂くこともある。	家族等の来訪が多く、職員と一緒に利用者の帰宅、墓参りなどの支援に努めている。また、なじみの病院の医療リハビリで、利用者同士の触れ合い等を通して関係性の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできる限りホールで過ごしていただくようにしている。食事やおやつ等も楽しく摂って頂けるよう、座席配置も考慮し、孤立化しないよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の該当はないが、利用者へのケアの工夫や情報伝達は随時行っている。家族からは、このまま元気に楽しく、笑顔で過ごして欲しいと継続利用の話を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの思いや要望は少ないが、日々の暮らしの中で、何気ない言葉やしぐさ、表情からそれとなく意向を聞いたり、ご家族から情報を得よう努めている。	職員は、その人らしさ、思いを生かした関係づくりに努めながら、利用者の思いや要望を聞き、家族等にもこれまでの介護の工夫や生きがいとしていたことを話してもらい、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と昔話をしたり、家族や面会に来られた親戚の方々から、本人の昔の暮らしを知ること努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康チェックやその人の人生に寄り添うことで、健康面や精神面を把握するようにしている。また、洗濯物たたみ、ごみ箱つくり等を一緒に行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用い、日頃の関わりの中から、利用者の思いや意見を反映できるよう、日々の記録や介護計画を作成している。また、介護計画はモニタリングを行いながら、職員の意見を反映し、作成している。	記録は丁寧になされているが、利用者の視点に立った暮らしの継続をいかに確保するか、総合的に支援体制が整っているかなどの視点から着目すると、アセスメント・記録・モニタリング等の連動が十分とはいえない。	記録を参考に、全職員で利用者本位の課題分析や介護計画に参加し、本人らしさを維持、向上させるためチーム力を発揮することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の関わりの中の、何気ない言葉や行動から気づくことも多いが、記録となるとなかなか難しい現状である。より具体的に記録するように努めているが、まだまだである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門病院受診等で家族対応が困難な場合は、事業所で対応や買物支援に努めている。また、一人ひとりのニーズに応えるべく、医療マッサージやリハビリを取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターはもとより、民生委員、病院、自治会、出張理容、施術師等の地域の人の力を借りて、豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者がかかりつけ医で、週1回の往診を受けており、常に連携が取れている。また、急変時や突発的な状況が生じた時等、適切な医療を受けることができている。	利用者のかかりつけ医の受診を支援している。受診は家族の同行を原則としているが、できない場合や情報提供が必要な時は職員も付き添い、受診結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に1名の看護師が居る。また、病院からも定期的に訪問看護師に来てもらっており、必要時はいつでも受診することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された利用者に対しては、職員が交代で面会に通い、状況を家族と共有することで、本人はもとより家族にも安心して入院生活を送って頂いている。病院の主治医、看護師とも常に連携を取るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族へ現状を伝え、いつでも急変、事故等が起こり得る状況であることへの理解を頂いている。重度化や看取りについては、家族に対して十分に説明を行っている。	重度化や終末期のあり方については、かかりつけ医と十分に連携を図り、家族にも看取りに関する指針や看取り介護に関する同意書を作成して説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応やマニュアルを書面で示している。事業所内での救急手当等については研修を実施しているが、外部研修となると全職員の参加には至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に、年2回の防火訓練を行っている。2階が共同住宅になっており、協力体制が得られるよう、体制作りを行っている。	防災管理者を中心に、年2回の防災訓練を実施している。同建物の2階の共同住宅の住民の協力が得られるようになっているが、近隣住民の協力や適切な誘導マニュアルの作成、備蓄の確保につながっていない。	火災についての危機感と意識を強め、防災訓練に近隣住民の参加を得、協力体制を確立する取組・自然災害を想定した避難訓練の実施、的確なマニュアル作成を期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に掲げ、常に職員間の声かけ合い実践に努めている。言葉かけや態度に気をつけており、語調や言葉遣いの配慮に努めている。	利用者と同じ目線で接することを心がけ、人生の先輩として敬う気持ちで接している。職員同士で気づいたら話し合いを行い、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同視線で接することに心がけ、本人の話にしっかりと耳を傾け、表情や様子等から本人の思いを知るように努めている。なかなか思いの伝えられない場合が多いため、こちらから提案し、選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先に心がけ、休息や入浴等は本人の希望に添い、基本的な過ごし方についても一人ひとりが持っている本来のペースや望んでいるペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは基本的に任せているが、声かけ・介助の必要な利用者には、その人の思いを大切にしながらお手伝いしている。2ヶ月に1回、訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、同法人の栄養管理士により管理された食事が提供されている。食前の口腔体操を取り入れ、嚥下機能を維持しながら、楽しく食事ができるよう努めている。また、下膳やおしぼりの洗濯・干し方と力を発揮して頂いている。	食事形態は利用者の状態に合わせており、利用者はできることを手伝っている。職員は、食事介助をしながら、周りの利用者にも声かけをして食事を楽しく食べれる支援をしているが、検食者以外は弁当等で、一緒に食事はしていない。	ホームの特性を踏まえて、職員と利用者が一緒に食卓を囲み、同じ食事を楽しめる環境づくりに積極的に取り組むことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養管理士により管理している。義歯や歯のない方にも食べやすい工夫やバランスの摂れた食事メニューとなっている。常にお茶やミネラルウォーター・OS1等を準備し、いつでも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殆どの利用者が声かけが必要であり、その人に応じた介助を行っている。口腔内視鏡等を行い、医師の指導を頂いている。また、義歯利用者は、消毒剤を使用し、清潔を保つよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	場所が分からなかったり、間に合わなかったりする利用者がほとんどであるため、排泄前後の態度や表情、排泄パターンを知り、声かけ・誘導を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、時間をみて声かけ・誘導し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にならないよう、水分摂取を促したり、主治医に相談し、便通を良くする薬を服用して頂いている。排便状況を把握し、薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、基本的に午後である。週2～3回の入浴を実施しており、本人の羞恥心や恐怖心等を考慮し、利用者無理強いせず、くつろいだ気分になれるよう支援している。また、足浴も実施している。	利用者の体調や状況等に応じた入浴を支援している。入浴を拒む利用者に対しては、さりげなく声かけし、入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠できるよう、日中の心身の安定に気をつけている。生活の過ごし方や職員の関わりも自然なリズムが得られるようにしている。本人のペースにあわせるとともに、環境を整え、安眠を促すよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬は、薬名・目的・副作用と理解し、誤薬や飲み忘れがないよう努めている。服用後の症状の変化や経過観察に心がけ、主治医との連携に努めている。服薬は、日付・時間・氏名を声に出して読み、返事を待って、口に入れるまでの介助を行い、確実な投薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の会話の中で、利用者の若い頃の生活や仕事・趣味等を傾聴し、レクやお手伝いに活かすようにしている。洗濯物たたみやおしぼり洗濯・干し方やゴミ箱作りのお手伝いで、役割や張り合い・喜び、楽しみある生活を送っていただけるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的なドライブや買物支援を実施している。また、医療リハビリに週2回通われるため、個別に送迎支援を行っている。	日常的にホーム周辺の散歩、近隣の薬局、商店、病院受診、医療リハビリの送迎等の支援を行い、職員以外にも家族や近隣の人々の協力もある外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金を預かり、事業所で一括管理している。本人の希望に合わせて、いつでも利用できるようにしている。請求書と一緒に1ヶ月の利用状況をコピーし、家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の高齢と難聴から電話対応は難しくなっているが、代理でかけたり、日頃お世話になっている方への年賀状や挨拶状が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、空調設備も整い、室内温度も利用者が過ごしやすいよう配慮している。テレビや音楽が楽しめ、居心地よい空間づくりに努めている。	共用の空間には、季節の飾り物が掲示しており、空調や明るさは適度に管理され、快適に過ごせるように工夫をしている。花壇に植えた季節の花をホールに飾ったり、収穫した梅でジュースを作るなど、生活感や季節感を取り入れて居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、ホールで一緒に過ごしたりと自由にして頂いている。ホールでの座席は決まっているが、隣の利用者との会話もみられている。家具等の設置場所の配慮に努め、安心できる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者にとって家であるということを職員がしっかりと認識し、居心地の良い所・落ち着いて過ごせる所となるよう、整理整頓・清掃に努めている。また、写真やぬいぐるみ等の持ち込みなどで、よりよい環境への配慮に努めている。	利用者がなじみの家具や写真、ぬいぐるみを持ち込み、居心地よい居室になっている。利用者の転倒にも留意した環境整備に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は狭い空間であるが、常に目が行き届き、見守れるようになっている。手摺りの取り付けや危険物の排除・場所の指示等で安全に努めている。		